電話の歴史博物館

Музей истории телефона

大矢 温

「ヨーロッパ最大の電話博物館」。とはいえ、規模はそんなに大きくない。前回のプリャンニク博物館と同様、これも私設博物館。電話会社が「スポンサー」とのこと。2018 年に現在の場所にオープンした。19 世紀末から 20 世紀末に至る 2000 個以上の各種の電話が展示されている。ソ連製はもとより、革命前からの外国製の電話や電信機も豊富に展示されているので、ロシア・ソ連のみならずヨーロッパの電話の歴史を目の当たりにすることができる。中でもニコライ二世皇后が使用していたドイツ製の電話機は電話マニアならずとも一見の価値がある。ちなみに展示物の中には 1980 年製造の日本製の「携帯電話」もあった。覚えている方もいらっしゃるだろう、自動車のバッテリーのようなゴツイ無線機本体に受話器が付いた、ごく初期の「携帯」である。これもまた展示物のフィンランド製の現代の携帯電話と比べるまでもなく通信技術の進歩には感銘を受けることだろう。ソ連時代の卓上電話や公衆電話なども当時を懐かしく思い出させる。展示物のネームプレートに貼られた QR コードにスマホをかざせばその展示物の説明を 6 か国語（露英独仏西中）で聞くことができるのでロシア語が苦手でも大丈夫。

また、博物館の一角がカフェになっているので、都心を散歩したついでにこの博物館を訪れれば、ここで一休みすることもできる。アンチックな電話に囲まれて、きっとリッチな気分でコーヒーを楽しむことができるだろう。

マヤコフスキー広場にほど近いが、サドーヴォエ環状線に面した巨大な集合住宅の中庭にあるので、ちょっと見つけづらいかもしれない。赤い英国製の電話ボックスが目印だ。ちなみに博物館の中にもソ連時代の電話ボックスがあって、去年の秋に私がこの博物館を訪れた際には、この電話ボックスの中でチェブラーシカが見学者の来訪を待っていた。

（札幌大学地域協創学群教授）

入場料は大人200ルーブリ、火曜日は無料。月曜休館日

最寄駅は地下鉄マヤコフスカヤ

123001, г. Москва, Садовая-Кудринская улица, дом 19с2